

## 普及活動情勢報告（平成26年4月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

### 高品質の新ショウガ生産に向けた取り組み（4月8日）



目慣らし会の状況

J A高知春野生姜部会は、新ショウガの出荷が3月から始まっており、本格的に出荷量が増加してくる時期に合わせて、目慣らし会と現地検討会を開催し、出荷規格の確認や栽培管理の検討を行いました。会には部員31名が出席し、活発な意見交換が行われました。

普及所は、土壌病害の病徴や防除方法について説明や助言を行い、農家も熱心に聞いていました。

普及所では、今後も生産安定のための栽培管理や新たな増収技術の開発による経営安定のための支援を継続します。

### 梅ノ木ファーム結成6年目のスタート（4月18日）



梅ノ木ファーム総会

梅ノ木ファームは、集落営農結成から6年目を迎え、総会を開催しました。

総会に先立ち、普及所から活動ビジョンの見直しや取組内容の重点化を指導し、その中で、共同利用機械の有効活用、協業による野菜等の栽培、農産物加工に関する検討、交流事業の推進等が活動計画に盛り込まれ、承認されました。特に、今年度は協業管理の梅の面積が拡大したことから、重点的に取り組み、収益を上げていくこととなっています。

普及所では、引き続き、基幹品目の安定栽培や、組織の運営への助言等、集落営農の活動を支援していきます。

### 久万川地区で集落営農組織を設立（4月20日）



久万川設立総会

久万川地区では、地域で組織をつくって高齢化や耕作放棄地を防止する取り組み等を進めており、普及所がワークショップの支援や組織規約案策定について助言してきました。その結果、集落営農組織設立への気運が高まり、4月20日に地域住民19名により「久万川地区集落協定営農組合」の設立総会が開催されました。

今後は、共同圃場での野菜や茶の栽培等を行いながら、地域の農業を支える仕組みを作っていきます。

普及所では、引き続き集落営農組織の活動を支援していきます。

土着天敵を利用してキュウリのミナミキイロアザミウマ対策を！（４月２２日）



天敵現地検討会の状況

J A高知春野キュウリ部会は、４月２２日に天敵利用現地検討会と勉強会を開催し、部会員１９名が参加しました。

普及所は、市販天敵のスワルスキーカブリダニと土着天敵のタバコasmカメを併用した今作の取り組みの概要と、ミナミキイロアザミウマや黄化えそ病への抑制効果について説明しました。

キュウリでは黄化えそ病が天敵利用にとって大きなハードルでしたが、同病にも予想以上の効果が得られており、未実施の参加農家から次作から取り組んでみたいという声が出ていました。

普及所では、今後もキュウリの生産安定やコスト低減のための支援をしていきます。